

令和8年度 第5回 揖斐川町学校教育の在り方審議会（議事録概要）

1 日 時 令和8年4月28日（火） <開会>13時30分 <閉会>15時30分

2 場 所 揖斐川町役場（3階）防災対策室

3 出席者

通常会議委員 秋山 晶則（委員長）、佐木 みどり（副委員長）、小林 直樹、
大西 恵子、椿井 昭二、徳永 恵理奈、中島 勝義、栗原 利樹、
山本 結、岸 啓司、森 允、庄子 寛之（リモートでの参加）、
久保田 智也

事 務 局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏、学校教育課長 佐竹 弥生、
学校教育課課長補佐兼総務係長 高橋 由利、
学校教育課課長補佐兼学校教育係長 植山 まりこ、
政策広報課長 神谷 秀一

4 次 第

（1）開会挨拶（委員長）

- ・ 今年度は、昨年度実施したアンケートや地区集会、シンポジウム、保護者との意見交換会を通じて聞き取った地域住民のご意見を踏まえながら、揖斐川町における小中学校の将来を見据えた教育の在り方に関する基本方針と、その実現のための具体的な取組みについて審議を進めていくことになる。
- ・ 本日は、ほかの自治体の現場に出向いて知見を得る行政視察・学校訪問の計画を立てるとともに、答申の作成に必要な基礎資料についての情報共有と、新しく参加された委員を交えた意見交流を行う。

（2）新規委員の委嘱と設置要綱等の確認

- ・ 教育長より、令和8年度新規委員に委嘱状を交付する。

（3）議 事

議第5号 行政視察・学校訪問の計画について

- ・ 教育長より、令和8年度の本審議会の見通し、行政視察・学校訪問の計画、答申後の町の協議の進め方の想定等について説明を行う。
委 員：視察は何時間程度行う予定か。
教育長：2時間程度を予定している。
委 員：飛騨市学園構想と山県学園構想の視察はそれぞれの市の教育委員会、岐阜市立藍川北学園と郡上市立大和小学校の視察はそれぞれの学校へ集合ということか。
教育長：その理解で相違ない。
- ・ 議第5号 全員承認

議第6号 答申の策定に必要な基礎資料について

- ・ 教育長、事務局長、政策広報課長より、答申の4つの視点に係る基礎資料について説明を行う。

(4) 意見交流（これからの揖斐川町に必要な教育環境について）

委員：昨年度から委員として参加する中で、義務教育学校が魅力的だというご意見をシンポジウム等でもお聞きしており、私も関心をもっている。岐阜県では今年度も2校開校しており、全国的にも比較的多く開校されている。ただし、学校数で考えると、全国の義務教育学校数は小学校・中学校数と比べてまだ100分の1にも満たない状態であり、義務教育学校を整備するためにはもっと多くの準備が必要ではないか。教員という観点では、小学校と中学校の両方の教員免許を持つ教員を多く確保する必要があると思われる。また、やはり揖斐川町は面積が大きく、仮に1校に統合した場合スクールバスを運行しなければならないが、そのために必要なバスや運転手の数を確保できるのかという問題もある。さらに、町内すべての小中学生を1つの学校に集める場合非常に多くの教室数が必要となり、それだけの校舎をつくるには膨大な予算が必要になるが、それを町で確保できるのかということも検討しなければならない。

当然、いつか学校統合が必要な時代は来る。また、義務教育学校にすることで、思い描く理想の教育の在り方に大きく近づくことも可能だと思われる。だが、これまで挙げた多くの問題もあり、また校歌にしても制服にしても一つ一つ検討していく必要があるため、我々が答申してもそれが現実になるには何年かかるのだろうかと感じている。やはり義務教育学校を整備する場合には多くの準備が必要であり、慎重に検討しなければいけないと考えている。

委員：児童生徒数の将来推計が示されているが、ここに書かれている児童生徒数が現在の3分の1になる令和20年を目指す形で答申を作ることになると思われる。その検討にあたって、スクールバスの経路図をみるとすでにこれだけのネットワークが確保されているので、今通学にスクールバスを利用している子どもたちが少しの通学時間の増加で済むようにすることを考えれば、自然と学校数等は決まってくるのではないかと感じる。児童生徒数の将来推計を踏まえつつ、今ある校舎の耐震性等の構造上の話、学校の配置図、スクールバスの経路等を勘案して検討していけばよいだろうと考える。

小中一貫校や義務教育学校にするかどうかについては、例えば、各地域の将来の児童生徒数も踏まえつつ、どの程度の規模であればそれらが整備可能なのかなど、一つずつ検討していけば目指す形も見えてくると思われる。

委員：養基地域を見ていると、池田町と揖斐川町のスピード感の違いを感じる。昨年度の地区集会等では保護者の参加が少なく、終了後に直接聞いた話ではいつ頃に決まるのかというような声が多かった。現在は模索している状態だと思うが、さらに考えを深めながら、慎重に検討していきたい。

委員：これから検討するうえで最も大切なことは、子どもたちが常に安心安全を感じられる環境づくりだと考える。今は子ども同士、親同士が互いをよくわかる距離感となっており、その直接的なつながりやそこから生まれる信頼感、安心感がより子どもたちの関係性を深め、そして心の成長や夢を持つことに結びついていく。また、教員との関係性についても、いつも寄り添ってくれる先生がいれば、心の安心安全が確保できる。これからの教育の在り方を考えるにあたっては、こうした安心安全を感じられる環境づくりが大切であり、そのために必要な人と人との関係性をベースに検討していくことが重要だと感じた。

委員：昨年度のシンポジウムや地区集会にすべて参加したが、地区ごとに出てくる意見が少しずつ違ったことは面白いと感じた。ただし、シンポジウムで出された事例は義務教育学校と小学校の統合の2つのみであり、特に義務教育学校についてはよい面はよく分かったが課題が分からない状態であった。今回、そのほかの形態も含めて視察ができることは非常に嬉しく思っている。しかし、審議日程を見ると答申の検討を行う次回の審議会後に実施する視察もあるため、可能であれば視察後に様々な感想を持ったうえで話し合いができるとよいのではないかと考える。

また、坂内や久瀬、春日の皆さんの話を聞きながら、やはり地域から学校がなくなると若い保護者からその地域への移住という選択肢がなくなり、地域が縮小に向かってしまうのではないかと思い、学校統合による影響を心配している。学校統合をしたとしても児童生徒数の減少が止まらない可能性を考えると、この審議会の場ではただ学校を統合するという選択をするのではなく、町として特色ある教育の在り方についても検討したい。学校統合に必要な予算を充てることで、現状を維持しながら教育的な特色づくりを行うことは可能ではないか。どういったことでもよいが、町外の方から子育て世帯が移住したい、揖斐川町で子育てがしたいと思ってもらえるような学校の在り方を目指す、という考え方もよいのではないかと思っている。

委員長：視察と審議会のスケジュールの関係については、恐らく事務局も調整したうえでこの日程にせざるを得なかったのだろうと思われる。やはり視察して知見を得て、比較しながら答申に反映させることが大切だが、次回の審議会で答申の内容を決定するわけではないため、その中で出された意見を持って視察を行い、視察の内容を全員で共有してその後の検討に活用できるような形で進めていきたい。

委員：PTAの立場から話をすると、児童生徒数の減少により会員数も減少しており、活動ができなくなったりPTA連合会を抜ける学校がいたりする状況である。例えば、地域の見守り活動もやっていただけの方が減っているために保護者に多くの負担がかかっているということもある。また、やはり揖斐川町は広く、通学時間の問題は非常に大きい。ただし、私も教育とまちづくりは一体的に考えるべきだと思っているため、これまで挙げた問題も踏まえつつ、町がどういった方針で進めていくべきかという視点から答申をつくっていきたいと考えている。また、もう一つの側面として、やはり財政面からの検討も必要である。学校を統合することによって校舎の維持管理費を抑えることができ、また教員の確保という面でも厚みを増しつつ人件費を抑えることができるのではないかと思うので、そうしたよい面が前面的に出ていくとよいと感じた。

委員：昨年度、幼稚園保護者との意見交換会に参加する中で、どの園においても学校統合する場合におけるスクールバスの導入についてや、子どもたちの人間関係に幅をもたせるためにも一定程度の学校規模が必要ではないかという意見が多く出され、保護者の関心の高さがうかがえた。やはり子どもたちが安心して学校に通い、のびのびと成長できる環境づくりを第一に考えたい。

委員：これまで学校教育に関する様々な意見を聞きながら、学校への期待や課題についての指摘に対して何ができるのかを考えなければいけないと日頃思っている。学校統合について考えるにあたり、子どもたち自身のこと、保護者のこと、地域の

こと、教職員のことなど様々な視点があるが、これらを総合的に考えた時に私たちが忘れてはいけないことは、やはり子どもたちにとってどうなのかが一番大切であるということだと考える。私たち大人の都合で話すことはとても簡単だが、今回行ったアンケートにも子どもたちや保護者の思いがたくさん表れているので、それをどのように形にするのかを考えなければならないし、それにはやはり揖斐川町ならではの在り方を目指すことが一番大事になる。そして、そのために大切なのは、やはり地域とのつながりを大事にしていくことではないか。これを忘れてしまうと揖斐川町らしさはなくなり、子どもたちや保護者の思いも無に帰すことになると考えている。

委員：自分の中で考えがまとまっていないが、これまでの地区集会等や今日出された意見を聞きながら思ったことを話すならば、今日の配布資料の中にも示されていたアンケート調査の結果を踏まえて、多くの仲間と集団を大事にしながら一人一人に目が行き届く環境、そして地域のつながりを大切にされた方がよいと思われる。そのためにどのような方向性がよいか考えると、統合して学校規模を一定程度確保しつつ、1クラスあたりの人数を減らすことで一人一人に目を行き届かせるという方法もあるのではないか。そして、教育内容として地域のことに密着するような形で探究活動を行うことで、地域とのつながりも確保できるのではないか。また、例えば、小学校は現状のままで中学校を1つに統合するという方法や、希望者が選択することができる小規模の分校のようなもの（特認校）を整備することで選択肢を増やす方法もあるように思う。

委員：あくまで子育て経験のある親としての個人の意見だが、私は以前から学校を統合して、少しでも多い人数の中で学習できる環境がよいと思っている。スクールバスの運行図等も見ながら、既に学校統合は始まりつつあると改めて感じるとともに、現状でスクールバスの交通網がこれだけあるのであれば、今の状態で学校を統合するとしても移動手段でそれほど困ることもないと思うので、それほど大きな問題ではないように感じた。

それよりも、今日様々な説明や意見を聞く中で、やはり教育内容やその学び方を考えていかなければいけないのではないかと考えている。例えば、私の子どもが解いている問題を見ても、昔と問題の出し方が大きく変わっている。また、総合学習の授業が行われているなど、学び方が非常に多様化している。総合学習については、担当する教員一人一人の熱意や考え方によって毎年内容や質が大きく変わってしまうこともあるので、そうしたことも含めて学び方をもっと考えていく必要がある。揖斐川町において教育を特化させるのであれば、より多くの選択肢をつくることで多様な学び方を選べるようにした方が、教育のまちを名乗ることができるのではないかと考えている。

委員：この審議会ではとても建設的な議論がなされており、それは皆様が子どもたちのために、揖斐川町のためによりよい在り方は何かを深く考えられているからだと思う。その中で考えていくべき内容として、やはり学校統合には反対意見も当然あると考えられる。多くの人と切磋琢磨できる環境を望む人が多い、というアンケートのデータも無碍にはいけないが、自分の母校をなくしてほしくない、もしくは学校がなくなることで旧町村のエネルギーがなくなり、自分たちも住むことができなくなるというような反対意見をもつ住民の気持ちにどれだけ寄り

添うことができるかが一番大事なことだと思っている。

また、児童生徒数の将来推計は令和20年の数値まで出されているが、当然その後も揖斐川町は続いていく。そのため、私たちがいなくなった後も揖斐川町が存続していくためにはどういった学校規模がよいのか、ということは考えていかなければいけないと思っている。

教育の在り方については、これから生成A Iの時代となり、学力をある程度生成A Iが補ってしまう可能性が考えられる中では、幼小中高大の連携や幼稚園的な探究学習のようなものがこれから注目されてくると考えている。また、例えば北海道等では学校統合をせずオンライン配信で小規模校をつなぎながら授業を行っているようなところもある。県内の先進事例を参考にすることももちろん大切だが、町として新しい教育の在り方を柔軟に考えていくことが必要だと考える。ただ、今年度中に答申を出さなければいけないことを考えると、次回の審議会では視察前にはなるが選択肢をある程度絞った状態で形にしていくことが必要ではないかと思っている。

委員：私が学校経営で常に大事にしてきた判断基準は、やはり子どもの育ちや発達にとってよいことは何かということである。また、私が感銘を受けた教育学者の小原國芳氏の考え方によると、子どもの育ちや発達にとって何がよいのか考えるにあたっては、まず人的、社会的、自然的、文化的といった環境というところから踏み込むことが重要だが、もう一つ、財政面からの視点も必要だとされており、この2つの兼ね合いは本当に難しいと思っている。どのような学校の在り方になったとしても、この2つの視点から子どもの育ちや発達を考えながら、教育の在り方やその内容にしっかりと目を向けていかなければならないと感じている。

委員長：教育の在り方の検討にあたっては、子どもの育ち、成長、発達にとってどうなのかということを中心に、今日出された意見も含めた様々な要素をすべて盛り込み、そしてすべて実現させることができれば理想ではあるが、やはりそれは難しく、選択する必要がある。ただし、ここで出された意見が無駄になることがあってはならない。できる限り集めた願いや考え、工夫については盛り込みつつ、揖斐川町ならではの道筋を見つけていくことが必要になる。

地域性や人と人とのつながりの重要性といった検討のベースは皆様の中で共有されてきていると思われる。今後は、本日説明があった現状を踏まえつつ、生成A Iなどの未来の姿や、それぞれの問題を補いうる様々な方法といった多くの要素を加味して、この揖斐川町の地域の豊かさや人々のつながりを活かし教育の在り方を重点的に追求していくという方向での具体的な提案を目指していくことになると思う。

(5) その他

○ 第6回 学校教育の在り方審議会の予定について

- ・ 教育長より、第6回の審議会の予定について説明を行う。

(6) 閉会挨拶（副委員長）

- ・ 先日行われた揖斐幼稚園での保護者との意見交換会では、今の授業の形態ではなくもっと工夫した形で行うことはできないか、というご意見を複数いただいた。保護者の学校教育

の内容や方法に対する関心は大変高く、とても頼もしく感じた。

- ・ 今後、答申の策定に向けて、我々も新しい教育の情報を収集するとともに、現場で行われている先進的な取組みや効果的な実践に学びながら、何より揖斐川町の子どもたちにとってどのような教育を提供していくとよいのかについて、真摯に審議を進めていきたい。

以上、閉会